

在宅酸素療法患者における大阪北部地震時の行動と災害への備え

北 英夫、 今戸美奈子、 鳳山 絢乃、 長谷川浩一、 深田 寛子、
後藤 健一、 中村 保清
(高槻赤十字病院 呼吸器科)

【目的】

在宅酸素療法患者の大阪北部地震時の行動と災害への備えの実態を明らかにする。

【対象と方法】

当院呼吸器科通院中の在宅酸素療法患者で、自記式質問紙への回答が可能な者を対象に調査を行った。調査期間：2018年7～9月

【結果】

48名(回収率81.3%)の回答を得た。地震直後に呼吸困難を自覚した者は11名(25.6%)、そのうち10名は呼吸法で対処ができたと回答した。地震後の避難指示や自宅の被害により避難した者は2名、酸素濃縮器の問題として運転停止(2名)、転倒(1名)、場所の移動(4名)があった。地震後に体調が悪化した者は7名(14.6%)で、精神的ストレスによる不安、不眠、息切れ等であった。地震を経験した後の不安としては、酸素の補充に関する内容が多く、自分の具体的な災害時の対処法について話し合ったことがあると回答した者は23名(47.9%)であった。

【考察】

患者個別の状況に応じた災害時アクションプランの教育が課題である。